

アイスコーヒー

2024. 8. 30

こんなにアイスコーヒーを飲んだ夏はなかった。なぜそうなったのか。まずは暑かった。とはいっても、これはここ数年続いていることである。暑いがためにのどを潤すのであれば、アイスコーヒーでなくてもよい。思うに、第一目的は、水分補給ではない。珈琲というものを味わいたいのである。そこで、考えてみた。自分の中で、夏のアイスコーヒーが、珈琲の代わりをしてくれるようになったのではないか。

以前は、夏になっても、そんなにアイスコーヒーを飲むことはなかった。あくまでも個人的な見解だが、あまりおいしいとは思えなかった。飲もうという気になれなかった。それが、いつの頃からか、コンビニで手軽に珈琲が飲めるようになった頃からだろうか。アイスコーヒーが進歩してきたように感じた。レベルが上がった。格段においしくなった。そのためか、夏になると、当たり前のようにアイスコーヒーを飲むようになった。

珈琲専門店に行けば、数ある中から検討を重ね、一杯の珈琲をオーダーする。以前は、夏でも、アイスコーヒーを頼まずに、珈琲を所望していた。ところが、ここ数年は、珈琲専門店でもアイスコーヒーを注文することが増えた。専門店のアイスコーヒーは、おいしいということを知ったためである。もしかしたら、今までもおいしかったのかもしれない。そのことを知らなかっただけなのかもしれない。

アイスコーヒーがおいしくなったのはありがたい。ご飯を食べに行く。セットメニューをオーダーすると、ドリンクがついてくることが多い。夏場は、ここで悩む。アイスコーヒーにするか、それを避けるか。自分の中でのアイスコーヒーの地位が向上しているがために、つつい頼みそうになる。これも、個人的な見解だが、セットもののアイスコーヒーは、むずかしい。頼んでしまい後悔することもある。アイスコーヒーを回避し、無難なドリンクに落ち着くこともある。

珈琲専門店を訪れ、アイスコーヒーを頼む。珈琲のように、いくつかの銘柄から選ぶことができる。味の違いを楽しむことができる。これが、暑い夏場の楽しみの一つとなってきた。今年の夏も暑かった。いつの間にか、季節は少しずつ秋へと向かっている。それに合わせたかのように、アイスコーヒーから、また珈琲に戻るようになる。アイスコーヒーには、ずいぶんとお世話になった。感謝をしつつ、夏に別れを告げたい。